背浮きし

る人が

たら

大変だ!! 戸に着けない

ダウンジャケット

ダウンジャケットを着ていたから、浮い て助けられた(東松島市・小学男児)

全身が波に沈んだ。何とか浮き、流れ

水を飲まないように口を閉じ、自力で

浮上し、発砲スチロールやタイヤにし

渦に巻き込まれた。力を抜いて浮かぼ

うとした。浮かんでいたマットにつかま

り、引き上げられた(東松島市・女性)

のようなものであったかを知る

究を進めている。

地域の歴史資料で、

博物館な

害が起きな

地震などの大きな災 に時だ。これらは土蔵

の地震でそれを学び、 おく一ことが重要である。 料を守るネットワー

など古い

建物に保管されてい

ることが多

その建物が被災

る中で、

そこで暮らした人々の生活がど

日本の地域社会には、

かつて

専攻は日本

近世史、歴史資料保財教などを経て、12フェロー、東北アジ

るには①災害が起きる前に所在

れている。

還元する。それが研究者として 「次」の災害に備えて社会へと

関との間で、新たな連携も生ま

地域の歴史資料を災害から守

東北大准教授

さとう・

ラェロー、東北アジ院文学研究科修了。

貸料の救済活動が本格的に始ま

ど、市民ボランティアや関係機被災した歴史資料への対応な

体系化し、発生が懸念される料を守る新たな学問分野として

がみついた(名取市・男性)

(陸前高田市・男性)

発砲スチロール

る畳や家にしがみついた

東日本大震災で津波に襲われた際に、浮具代わりになったもの

(河北新報の取材などから)

津波に孫が巻き込まれた。孫が背負っ

に引き上げた(宮城県七ケ浜町・男性)

ヘルメットの中の空気が浮力になって水 面に上がり、ドアが外れた冷蔵庫の中に

入ると舟のようになった

リュック

ているリュックが水に浮かんで、

まって、ものに

ください

# 避難所が、大津波に襲われた。たとえ水にのまれても、

ら身を守る鉄則だ。しかし、東日本大震災では逃げ遅れた人々や一部の指定 海の近くで強い揺れを感じたら、高台やビルに避難する。これが、 まだ助かるチャンス

はある。 の事故防止にも生かせる教訓だ。 ある物を浮具代わりに使って救助を待った人たちがいた。夏場に多発する水 危機を脱した被災者の中には、あおむけとなる「背浮き」や身近に

の字に広げる児童たち。 レーニングに挑戦し、手足を大 会指導員の安倍志摩子さん(50) 「命を守る着衣泳」の授業が行 体育館で背浮きのイメージト

2011年3月11日、

9番)、 たら、 番)に連絡する。声がけも重 な浮具を渡し、 背浮きしている人を見かけ ペット 海上保安庁

果日本大震災では津波に流さ 具代わりになるものが多い

たくさんの人がカ

めた空気は浮袋の役目を果た

とっさ

冷蔵庫

(石巻市・小学男児)

ヘルメット

身の回りには水に浮き、浮

ける効果もある。 子どもにとって一生の財産に 知識があると、 なる」と普及を呼び掛ける。 に役立つ。学校で教えれば、 人に背浮きを誘導し、 パニックに陥って 「浮いて待ての

# ■水にのまれたときの対処法

# て

上げて」「肺に空気をためて」と、 は「手足の力を抜いて」「あごを

では授業が奏功し、 背浮きの3原則を呼び掛けた。 童がいた。 授業はことしで9回目。 、助かった児

巻き込んだ。

て、返事は1

母親に名前を呼ばれたが

ャラリーに達し、児童や住民を われた。濁流は体育館の2階ギ

大声で助けを呼ぶの

任せると、 りに人がいたので手を胸の上で 小学6年の女子の頭をよぎった 水が流れ込む体育館で、 体の力を抜いて水に身を 背浮きの授業だった。

もできると思った」と振り返る。 彼女は6年間、 授業を受けて

近くの岩山に、

1人こつこつと避難所を整備し、

それで13年前、

65歳の時に決

東日本大震災で大津波に襲われた。佐藤善文さん(78)は、震災の十数年前から自宅

住民ら70人を津波から守った。

# るよ

命を守る着衣泳の授業に取り組む野蒜小 の児童たち =6月22日、東松島市小野地区体育館

# までの時間を稼ぎ、 **尚技術科学大教授)は「浮い** 技術だ」と説明する。 さや浮具を使うことで、 て待ては、状況に応じて背浮 に取り組む。斎藤秀俊会長(長を合言葉に、水の事故の予防 水難学会は「浮いて待て」 命を守る 身近な物を浮具に 落ちたり、 言える。 が基本 マットなどを浮具に使

浮いて待てを実践していたと 体が水面から出るのは全体の 浮いて待ての基本は、水に 岸にたどり着いたり、 要で、

防災ずきん 防災ずきんが浮輪代わりになったのか 水面に浮いたところを夫が引き上げて くれた(宮城県山元町・女性)

# である。 会的な仕組みづくりについて研 れらの歴史資料を災害から守 資料の救済活動と並行して、 資料の豊富さは、 のない日本の大きな文化的特徴 れている。特に江戸時代の文書 にめの手掛かりとなる文書や民 東日本大震災で被災した歴史 将来へと継承するための社 美術品などが、数多く残さ 世界でも類例

のは、全体のごく一部。大半は、 ど公の施設で保管されているも

# 歴史資料救済と継承の仕組みづくり

地域の旧家で個人の所蔵品とし

を理由に

中

ことになった。

の歴史資

料も一緒に廃棄され 取り壊される際、

て保管されている。

行政に文化財として指定され

る。

継承の責任は個人に委ねられ ていなければ、それらの保存と

所蔵者が!

多

**釵の歴史資料が廃棄さ** 同時に被災する。 大きな災害になれば、

複数の

が残された。災害

このような歴史資料は、

薄れるなどの理由で、

かけだった。宮城県 が高まる。このこと ことになった。

救済することができた。 を生かして、多くの歴史資料を いてきた地域とのネットワー 震災前からの活動で築



津波被害を受けた旧家で行った歴史資料のレスキュー活動

# =1月29日、石巻市

■16日にロボット技術と東日本大 震災をテーマとする講演会 16日午後1時、仙台市青葉区の東

告知板

北大工学部中央棟大会議室 国産ロボット「クインス」による 原発事故対応のほか、水中ロボット を活用した港湾被害の調査、津波災 害と復興、震災と復興の映像アーカ

イブ構築などについて研究者4人が

英語で講演する。 参加無料。タイトルを「FSR 2012 特別セッション参加申し込み」とし たメールに氏名、所属、連絡先、人 数を記入してfsr2012@astro.mec h.tohoku.ac.jpに申し込む。

# 手足の力を抜く 鼻と口が水面から 出るようにあごを 上げる 靴を履いていると足が 自然と水に浮く 素早く呼吸し肺に 空気をためる

背浮きのこつ







た子がいたと聞いたから、

# ■手作り避難所 70人守る(東松島·野蒜)

# かったからです。 伝える

2011.3.11

難所」の看板も出しました。 岩山の登り口3カ所に「災害避

業を始めてから完成まで、 水、暖房器具、燃料を用意し、

に8畳ほどの山小屋を作りまし 3 年

のぐあずまやと、冬場の避難用 雨をし

頂上には既に40人ほどの住民

頂上はテニ

の)チリ地震津波の話を聞くた て、観光客を三陸に案内するこタクシー会社を経営してい びに、同じような津波が来たら、 定避難所の野蒜小は、海抜が低 野蒜は危ないと思いました。 (1960年 佐藤善文さん スコー 階段を作りました。 ました。次に斜面に石を敷いて、 でやぶを取り払う作業から始め 岩山は高さ30公です。 自分で組み立てて、 自分が担いで運んだ建材 ・ト半分ほどの広さがあり

とがありました。

消極的でしたが、公園も兼ねる 避難所を作ろうと。家族は初め、 を引き継ぎ、自宅近くの岩山に ということで納得してもらいま

心しました。長男に会社の経営

孫に続いて長男も帰り、 な揺れに襲われました。小学校 から引き渡しを受けた小学生の と言われたこともありました。 震災の日は、自宅にいて大き

金をつぎ込んで何やってんの」 作業は続きます。友人から「年 弱かかりました。 整備資金には年金を使いまし 階段や建物を補修したりと 完成した後も下草を刈った

# 自費で設置 、岩山に 波が来ている」と知らされまし

い水が近くの線路に迫っていま した。 家族5人と急いで岩山に

大きな破壊音とともに、黒

がいました。岩山の下では、 込み、付近の住宅は1階が水没 量のがれきとともに濁流が流れ その後、津波で流された人、

移動してきた人も加わり、避難第2波に不安を感じて自宅から

蓄していた水を飲んで過ごしま 3日目まで孤立しましたが、 私の避難所までは水が上がり

# 岩山の手作り避難所の一角に整備し 手作りの避難所 たあずまや。震災の当日は男性の避 野蒜小の自宅 野蒜(運休中) ● 東松島市

運べるように、 住民が日ごろから気軽に足を 震災後、地域の憩いの場として、 念です。逃げてきてほしかった。 んの人が犠牲になり、とても残ませんでしたが、地域でたくさ した。災害はいつ起きるか分 花や芝を植えま

からも避難所の整備を続けま

# 日、東松島市野蒜

# 難者が身を寄せ雪をしのいだ=9

て、ずぶぬれの人を温めました。 た。二つのストーブに火を付け 屋、男性をあずまやに分けまし 者は70人ほどになりました。 女性、子ども、けが人を山小